

トランスナショナルドラマ『深夜食堂』の研究

一日中番組の比較分析とオーディエンス分析から

WU Jiajing

研究背景には、中国における日本のテレビドラマの起伏、中国における海外テレビドラマの輸入政策の変化、文化政策をきっかけに引き起こった翻案するブーム、中国における日本のドラマを翻案した歴史的流れ、中国版『深夜食堂』の翻案に関する視聴者の期待外れ問題といった5つの背景を論じた。

次に、中国版『深夜食堂』が視聴者から悪評が寄せられた背景の中、日本のドラマをどのように翻案したらいいかといった討論がウェブサイトで話題になっており、数多くの日本のドラマを翻案することに反対する声広がっていた。したがって、なぜ中国人の視聴者が中国版『深夜食堂』に対する容認度が低いのかという問題意識を行った。

そこで、日中番組『深夜食堂』を具体的に「エピソード、登場人物、料理」といった側面から比較分析を行ったうえで、レビューサイト・豆瓣における書き込みを通してオーディエンス分析を行う。制作側と受け側の視点に立って中国版『深夜食堂』を全体的に考察することが目的となっている。

本研究は、トランスナショナルな文化的翻案過程の文脈において、S.ホールの「テレビ言説のエンコーディング／デコーディング」というコミュニケーションの非対称性モデルを用い、日本版と比較して中国版『深夜食堂』はどうだったかとメッセージの産出の視点で「エンコーディング」を考察し、中国人視聴者の書き込みをもとにメッセージの受容の視点から、「デコーディング」を考察する。

また、テレビ・メディアの記号論を用い、日本版と比較して中国版『深夜食堂』の料理というコードはどう産出されたかと「記号表出」を考察し、中国人視聴者の書き込みをもとに料理というコードはどう解読されたかと「記号解読」を考察する。

さらに、21世紀の中国人視聴者がどのように日本との文化的近さを認知しているのかを中国版『深夜食堂』の視聴者受容調査から分析する。加えて「文化的割引」という言説と節合することで、中国版『深夜食堂』は受け入れなかったことを分析する。

本研究では日中番組『深夜食堂』を具体的に「エピソード、登場人物、料理」といった側面から比較分析を行ったうえで、レビューサイト・豆瓣における書き込みを通してオーディエンス分析を行った。制作側と受け側の視点に立って中国版『深夜食堂』を全体的に考察し、以下の3つの論点を検証した。

1つ目は日中番組『深夜食堂』の比較分析には、「赤いウィンナー編」と「シスターズ編」を主要な登場人物の造形と相関、語りの戦略といった2つの側面から共通点と相違点を明らかにし、国境を超えて中国版「深夜食堂」はどのような形で翻案あるいは再解釈をしたかを考察した。

第4章で①「赤いウィンナー」編が日本版に忠実にローカライズを行った。②「シスターズ」編が日本版を参考して大胆に再解釈を行ったと結論づけた。

2つ目は中国版に対するオーディエンス分析には、トランスナショナルな文化的翻案は中国のローカルな文脈において、ホールの「エンコーディング／デコーディング」といったコミュニケーションの非対称性モデルを引用し、レビューサイト・豆瓣における書き込みによって中国人視聴者の受容を考察した。

第5章で中国人視聴者が①中国版の「料理の設定・舞台設定・ストーリーの内容・人物造形と役者の演出・コマーシャル」に不満だった。②「マークの娘」というオリジナルなエピソードとその俳優の演技に好評をしたという考察が得られた。

また、第4章と第5章の分析結果を「記号伝達・記号解説」に関連づけ、中国版『深夜食堂』の製作側と中国人視聴者の間に「料理のコード」に対して誤解・曲解が起こったと考えられた。

3つ目は「文化的近似性」、「文化的割引」といった論説を用い、中国版「深夜食堂」の翻案はなぜ受け入れなかったかを考察した。具体的には、第5章の視聴者の受容調査結果が提示しているように、中国人視聴者が日中両国の食生活の違いを論じた内容から見れば、21世紀の中国人視聴者が日本との文化的近さを認知していないと思われる。さらに、異文化間コミュニケーションにおいて「文化的割引」が起こったため、中国版『深夜食堂』の魅力を低下させたと考えられる。

残される課題について、日中番組『深夜食堂』の中、「赤いウィンナー」編と「シスターズ」編以外の似ているエピソード、中国版のオリジナルのエピソードへの考察が残っている。レビューサイト「豆瓣」から計260件の中国版『深夜食堂』のレビューを分析したが、動画サイトの書き込み、ソーシャルメディアの言論などのウェブ空間での質的調査を行う必要があると考えている。